

強化委員会より

東京都高校総体を終えて

陸上競技専門部強化委員長 小林 隆雄

感想

平成25年度の東京都高校総体が5月11日（土）から駒沢競技場で開催された。12日（日）にはハンマー投決勝が大井競技場において行われ、18・19日と合わせて4日間の大会が駒沢競技場で競技が行われた。

初日は競技開始と同時に予想通り雨が降り始め終日雨天での競技となった。2日目は晴天微風の好コンディションであったが、2週目の2日間は晴天であったものの強い風に記録更新を阻まれた感があった。

そのようなコンディションの中、1つの東京都高校新記録と12もの大会新記録が樹立されるという充実した結果を得られた大会となった。また、新記録だけでなく、各種目でレベルアップが確認でき今後の関東大会・全国大会で戦う上で大変心強い印象を得ることができた。

また、1年生の活躍も目立ち今後の東京都を支える中心選手の出現を頼もしく感じた次第である。

ただ、大会前の故障により全国大会での活躍が期待できた選手が何人か欠場したことは残念であった。ただ、秋の国体までに回復しインターハイの分まで活躍されることを願うばかりである。

東京都高校総体 観戦記

まず、女子1500m決勝において、ト部 蘭（白梅学園3）が4分19秒20という東京都高校新記録を樹立した。スタートから快調なペースで走り切り、独走ながら最後までスピードが落ちることなくゴールまで駆け抜けた姿は「素晴らしい」の一言である。この記録は、日本高校歴代19位に相当する好記録であり、全国大会での優勝も期待したい。また、この決勝では出場者全員が積極的にレースし、2位の谷萩 史歩（八王子3）も大会新記録で走るなど入賞者全員が自己新記録であったと思われる。

男子5000m競歩では、山口 壱平（東京実業3）が21分27秒25の大会新記録をマークした。山口は支部予選の段階で今季すでに20分台の記録を出しており、今大会での東京都高校新記録を期待していたが「歩型を大事に、確実に」と歩く事を優先したのか大会新記録に留まった。現段階で高校ランキングも2位相当であり全国大会での優勝候補であることには間違いない。今後の活躍に大いに期待したい。ただ、男子において大会新記録が一つであったことは残念であった。

女子の競歩についても、関東大会に出場できる4位までが大会新記録をマークする好レースであった。5000mに距離が延び、大会記録が新しいとはいえ選手たちの努力に敬意を表したい。

女子400mHでは、伊藤 明子（田園調布3）が自己の持つ東京都高校記録には及ばなかったものの59秒88という大会史上初の60秒を切る大会新記録で優勝した。伊藤は昨年度の七種競技の優勝者であり、その専門種目の七種競技も大会新記録で優勝した。また、走高跳でも優勝し、一人で3種目を制した事となるが、これも快挙といえよう。

女子の400リレーでは、昨年に引き続き東京高校チームが大会記録を更新する46秒29をマークし優勝した。この記録は日本高校歴代11位となる好記録であり昨年に引き続き全国大会2連覇も夢ではなく、現時点での高校ランキング1位である。メンバーに1年生が2人おり、バトンの精度も今後更に向上すると思われることから大いに期待できる。

女子100mハードルは、昨年全国中学校記録をマークした都文京高校1年生の澤田イレーネが高校1年生歴代13位にあたる14秒12の大会新記録をマークして優勝した。しかも、数字上は0.9mであったが強い向い風の中でのこの記録は全国大会でも決勝に残ることができる立派なものである。現在は故障も癒えている様子

なので、秋の国体まで継続してもらいたい。また、3位までが1年生であり新人大会以降も充実しそうだ。

女子の3000mでは谷萩 史歩（八王子3）が強風の中9分22秒28の大会新記録で優勝したが、関東大会以降のレベルの高いレースにおいて自己の持つ東京都高校記録を更新することは間違いなさそうである。この種目で関東に出場できない7位が9分台であった事はあまり記憶にないハイレベルであった。同じく女子800mでもト部の2分10秒69の優勝タイムも立派だが、7位が2分13秒台と言うのもレベルが高い。更には女子400mも7位が57秒台であったことも恐ろしいくらいレベルが高くなった印象であった。

以上のように女子のレベルアップが著しく、跳躍や投擲でも同様の事が言える。砲丸投げでも12m以上が4人もおり、11mを投げなければ入賞しない事などは史上初と思われる。

短距離では強い向い風に災いされたが、高森 真帆（東京3）を中心に全国レベルの選手が複数いることは心強い限りである。一昨年までは女子の全国入賞が少なかったが昨年以来女子のレベルアップが顕著である。

男子では200mで1年生の大嶋 健太（東京1）が優勝し、久我山1年生の小池 真郁が2位になる1年生の上位独占が見られたほか、長距離や跳躍でも1年生の入賞が目立った。これは、男女ともであり中体連でしっかりと育てられた優秀な人材を今後大切に育成していきたい。

総合

男子は東京高校が短距離・ハードル・跳躍・投擲に7種目で優勝し13年連続29回目の総合優勝を果たした。各種目で複数入賞し大量得点を得られるのが強みであり、ここ数年は南関東大会でも総合優勝している。

女子も東京高校が総合優勝をし、昨年の新人大会の雪辱を果たした。女子も短距離・リレーで4種目に優勝し男子同様各種目で複数入賞し加点した。昨年度の全国優勝校の意地を見せた結果と言えよう。

以上の結果、南関東大会へは男女あわせて73校が出場することとなった。

6月14日からの南関東大会での健闘を祈るとともに、昨年度以上のインターハイ出場をきたいしたい。

以上

その他

・日本代表選手に以下の者が選出された。

アジア・ユース大会（8月19日より 中国・南京） 安藤 夢（東京高校2）

ユニバーシアード（7月7日 ロシア・カザン） 原 洋介（日本大学・東京高校卒業）